

実質化された人・農地プラン

〔注：本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。〕

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
与那原町	与那原地区(大見武区・板良敷区 上与那原区・与那原区)	令和3年2月15日	令和3年3月26日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	37.0ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	21.8ha (回答率58.9%)
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	10.8ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	1.6ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	7.8ha
④地区内において今後中心経営体引き受ける意向のある耕作面積の合計	0ha
(備考) 後継者がいる、規模を拡大したいが1.4ha	

2 対象地区の課題

営農意向調査にて回答のあった農家の約半数が70歳以上であり、すでに高齢化になっているのが現状で、その農家のほとんどが畑を現状維持(後継者不明)であった。
今後の農業の担い手も不足している。新たな農地の受け手確保が必要。
アンケートでは与那原町外からの農家や法人の受入も止む無しの意見もあった。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

(大見武地区)
与那原町内で最も多くの農地があり、土地改良区もある。遊休化している農地もあり、現役で農業をしている方が近所にいる為、担い手の誘致を進めやすい。農地中間管理機構と連携しながら農業従事者の確保をする。

(板良敷地区)
与那原町内で2番目に農地が多いが、そのほとんどが原野化している。
一部さとうきび畑をしている農家もあるが、後継者不足である。
アンケート回収の中の意見で、若い世代ばかりではなく、60歳～65歳の定年退職者をターゲットにすると10年～15年は農業を続けられでは。と意見もあった。
JA及び市町村で連携し新規担い手を探し、原野化した農地の開墾補助等を実施し、対応していく。

(上与那原地区)
集落のほとんどが市街化区域であり、一部の市街化調整区域で農家が集まり農業を営んでいる。
高齢化・農業離れが深刻である。しかし小規模な農地集落な為、若手の新規就農者が1人だと解消する。
認定新規就農者の受入を推進することにより対応していく。

(与那原地区)
集落のほとんどが市街化区域であり、山間部には国道与那原バイパス(令和3年1月現在工事中)があり、その国道より山側は市街化調整区域であるが、原野化している。しかし小規模な農地集落な為、若手の新規就農者が1人だと解消する。
認定新規就農者の受入を推進することにより対応していく。